

# 「個別最適な学び・協働的な学び」を取り入れた授業づくり

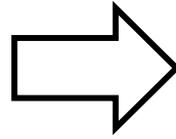
浦添市教育委員会 令和5年10月17日(火)

## 参考文献

- ①文部科学省『小学校学習指導要領』(東洋館出版、2018)
- ②文部科学省『小学校学習指導要領 解説社会編』 (日本文教出版、2018)
- ③ 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編』 (東洋館出版、2018)
- ④中央教育審議会『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』  
[https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt\\_syoto02-000012321\\_2-4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf)
- ⑤中教審「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm) (2023年10月1日)
- ⑥「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年3月版)」  
[https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt\\_kyoiku01-000013731\\_09.pdf](https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt_kyoiku01-000013731_09.pdf)  
(参照日 2023年5月19日)
- ⑦「教育の情報に関する手引(令和元年12月)概要」 (参照日 2023年6月13日)  
[https://www.mext.go.jp/content/20200609-mxt\\_jogai01-000003284\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200609-mxt_jogai01-000003284_001.pdf)
- ⑧「教育の情報に関する手引-追補版-(令和2年6月)概要」 (参照日 2023年6月13日)  
[https://www.mext.go.jp/content/20200707-mxt\\_jogai01-000003284\\_011.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200707-mxt_jogai01-000003284_011.pdf)
- ⑨「第4章 教科等の指導におけるICTの活用」 (参照日 2023年6月13日)  
[https://www.mext.go.jp/content/20200701-mxt\\_jogai01-000003284\\_005pdf.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200701-mxt_jogai01-000003284_005pdf.pdf)
- ⑩文部科学省初等中等教育局教育課程課, 2020年, 『新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について』(令和2年10月)  
[https://www.mext.go.jp/content/20201023\\_mxt\\_sigakugy\\_1420538\\_00002\\_004.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201023_mxt_sigakugy_1420538_00002_004.pdf) (参照日 2023年9月8日)

⑪国立教育政策研究所教育課程センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会』(東洋館出版社、2020)

2008年までの  
学習指導要領



2017年からの  
学習指導要領

コンテンツベース

コンピテンシーベース

教科等の内容習得

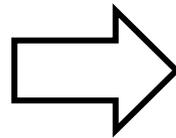
資質・能力の育成



教育方法に踏み込んだ提示



○教科等の目標・  
内容が中心  
○教科等の関連  
が弱い



○資質・能力の育成  
が中心(他に転用でき  
る汎用的な特質)  
○教科等横断的な指  
導を求める

カリキュラム・マネジメント

個別の教科等の発想での授業改善では不十分

前文・総則における主なキーワード

情報活用  
能力の育成

前文

持続可能な社会の創り手

社会に開かれた教育課程 ※

見方・考え方

主体的・対話的で深い学び

教科等横断的な  
視点に立った  
資質・能力の育成

生きる力

- 知識及び技能が習得されるようにすること。
- 思考力, 判断力, 表現力等を育成すること。
- 学びに向かう力, 人間性等を涵養すること。

カリキュラム・  
マネジメント

資質・能力の  
三つの柱

「生きる力」  
の教育課程  
への具体化

目指す資質・能力を  
踏まえた各学校の  
教育目標の明確化

学校の「総合的な学  
習の時間」との関連

# 学校に求められる授業改善の試案

教科等横断的な視点に  
立った資質・能力の育成

○ 現代的な諸課題に対応して  
求められる資質・能力

○ 学習の基盤となる資質・能力

問題発見・解決能力・情報活用能力・言語能力等に  
視点を置いた授業改善

1時間で使う最初の資料  
教科等で単元または

何を「問題」にして考え  
ようとしているかを明確  
にする導入時の工夫

学習問題(めあて)の明  
確化と予想とその精査↓  
学習の動機付け

個別学習 / ICT活用  
協働学習

協働学習(学習のまとめ)

振り返り(個別学習)

# 学校に求められる授業改善〔試案〕

## 学校に求められる授業改善の試案

教科等横断的な視点に  
立った資質・能力の育成

○ 現代的な諸課題に対応して  
求められる資質・能力

○ 学習の基盤となる資質・能力

問題発見・解決能力・情報活用能力・言語能力等に  
視点を置いた授業改善

1時間  
で使う  
最初の資料  
教科等で  
単元または

何を「問題」  
にして考え  
よつとして  
いるかを明確  
にする導入  
時の工夫

学習問題  
(めあて)の  
明確化と  
予想とその  
精査↓  
学習の  
動機付け

個別学習  
協働学習

ICT活用

協働学習  
学習のまとめ

振り返り  
(個別学習)

毎時間の授業で、この三つを意識  
するだけでも、授業改善につながる。

解釈の  
話し合い!

## 協働学習で「解釈」の場(話し合い)活動

言語活動を  
中心に  
記録／要約  
説明／論述  
話し合い等

- ① 思考・判断・表現力等を活用した知識・技能の習得  
⇒「基礎的知識」の習得を問題解決的にする工夫
- ② 知識・技能を活用した知識・技能の活用
- ③ 問題解決過程における多様化の確保
- ④ 「③」における**解釈**の多様化・相対化

## 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 前文(17頁)

各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、**長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を活かしながら...**

## 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』

### 第1章 総説

#### 1 改訂の経緯及び基本方針

##### (2) 改訂の基本方針

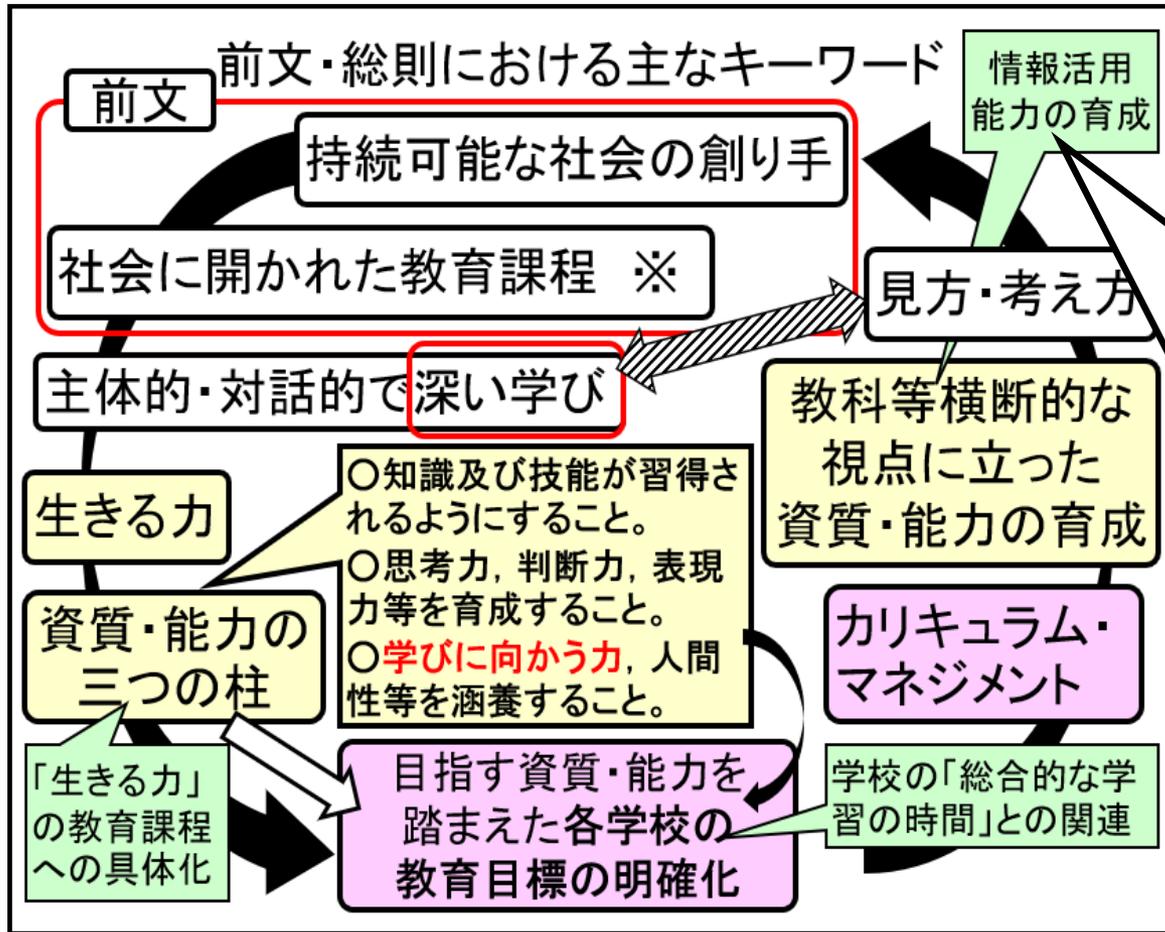
- ① これまでの教育実践の成果を確認する
- ② 新しい教育方法を求める必要はない
- ③ 教育方法の「型」ではない⇒**多様な方法の選択**

#### ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

児童生徒に求められる資質・能力を育成することを目指した授業改善の取組は、既に小・中学校を中心に多くの実践が積み重ねられており、特に義務教育段階は**これまで地道に取り組み蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はないこと。(4頁)**

# 現在の教育状況の背景

## 2017年版 学習指導要領



「GIGAスクール構想」  
前倒し実施  
「1人1台端末」  
(2020年3月)

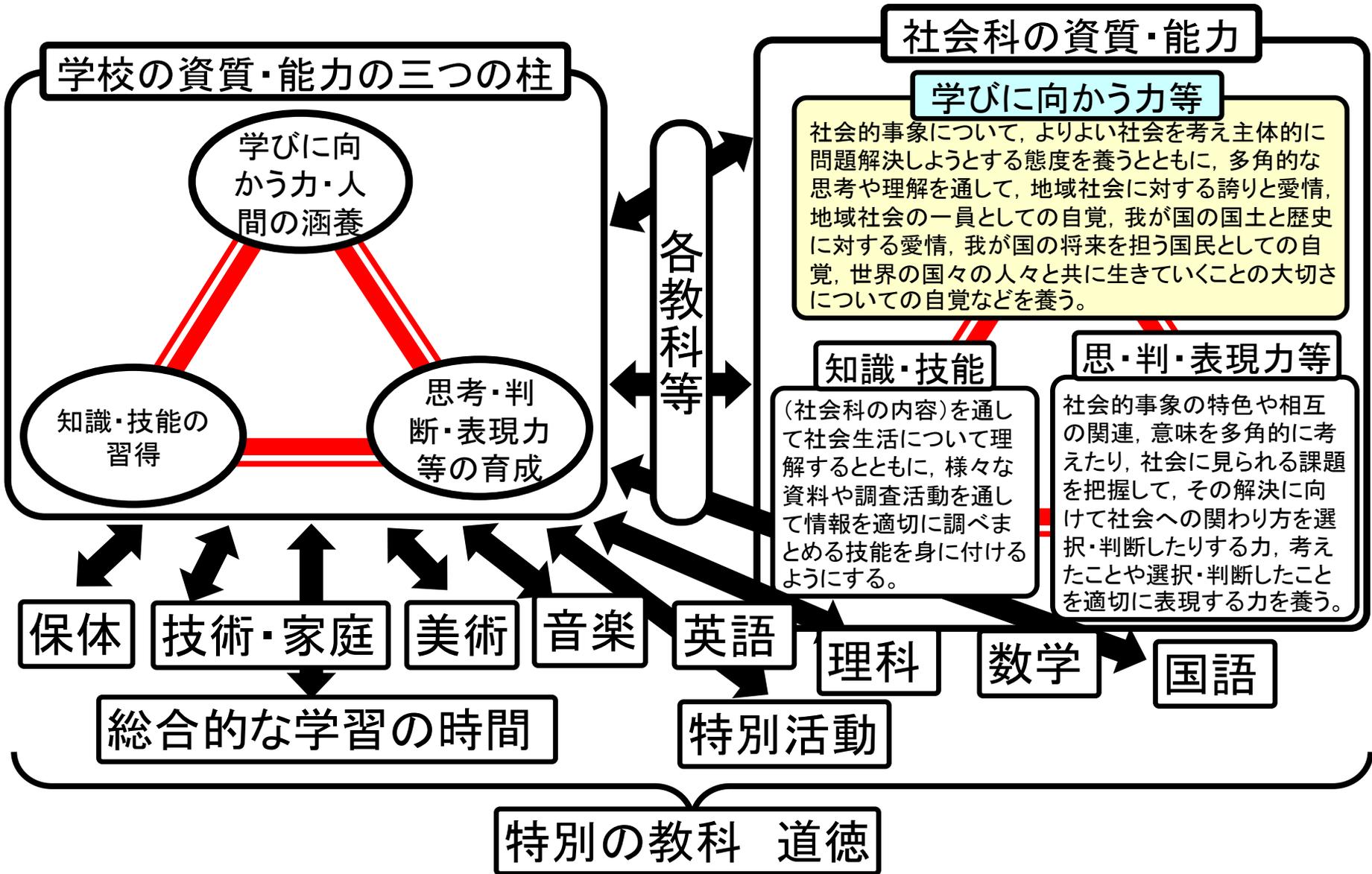
中教審  
「令和の日本型学校」  
(2021年1月)  
知・徳・体を一体で  
育む学校教育

- 学習機会と学力の保障
- 全人的な発達・成長の保障
- 身体的・精神的な健康の保障

- ① ICTを活用した個別最適な学び
- ② 協働的な学び

## 学校教育におけるICT化の加速

# 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成



# 学校教育目標(育成する児童・生徒像)

資質・能力の三つの柱の育成に向けた概念図

△:教科等の三つの資質・能力

主体的・対話的で深い学び

社会に開かれた教育課程

地域の人的・物的な体制確保

国語

算数・数学

理科

資質・能力の三つの柱

生活科

学びに向かう力・人間の涵養

音楽

道徳科

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

社会科

図工・美術

知識・技能の習得

思考・判断・表現力等の育成

外国語

外国語活動

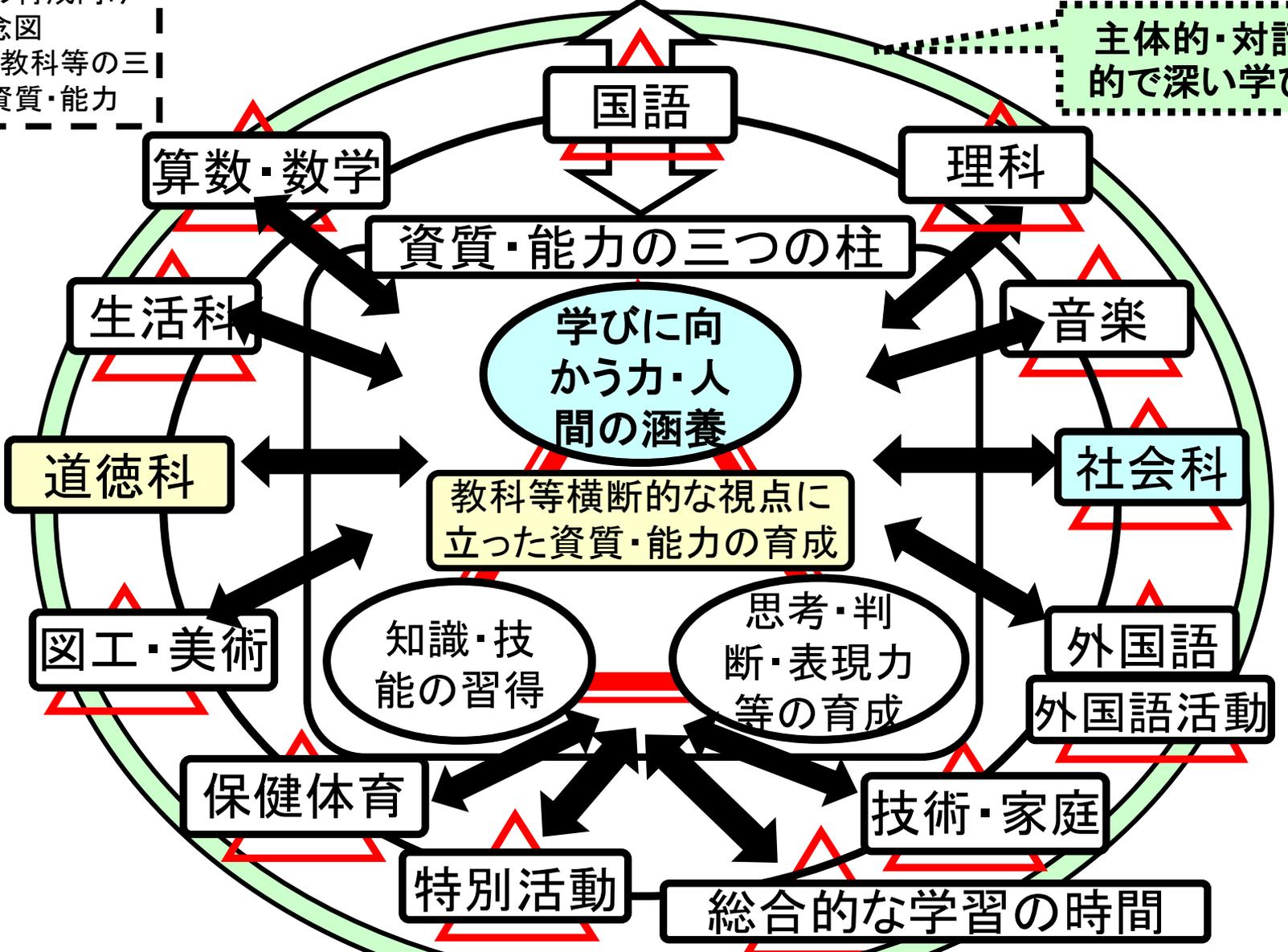
保健体育

技術・家庭

特別活動

総合的な学習の時間

カリキュラム・マネジメント



# 新学習指導要領の特長

教科等横断的な視点に立った  
資質・能力の育成

どんな  
資質・  
能力？

## ① 学習の基盤となる資質・能力

各教科等の特色を生かした  
それぞれの授業の充実

思考・判断・表現中心

## ② 現代的な諸課題に対応して 求められる資質・能力

各教科等の教材から現代的な  
諸課題を活用した授業の充実

教材のテーマ中心

# 教科等横断的な視点に立った資質・能力（「総則編」47～52頁）

## 1 学習の基盤となる資質・能力

- (1) 言語能力⇒国語（要とする）・外国語科・外国語活動
- (2) 情報活用能力⇒コンピュータの操作・プログラミング・社会科  
（含：情報モラル） 統計・算数・数学
- (3) 問題発見・解決能力⇒全教科等・総合的な学習の時間・特別活動

## 2 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

- (1) 各教科等・総合的な学習の時間

例：『学習指導要領』巻末「付録6」参照

教科等の各単元と児童生徒や学校、地域の実態及び児童生徒の発達の段階を考慮した学習内容

伝統や文化／主権者／消費者／法／知的財産／郷土や地域／海洋／環境／放射線／生命の尊重／心身の健康の保持増進／食／防災を含む安全、等に関する教育

# 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- ① **学習の基盤**となる資質・能力
- ② **現代的な諸課題**に対応して求められる資質・能力

教科等の特質  
授業の

- ① 各教科等で、**思考・判断・表現力**等を中心に教科等に共通する汎用性の高い資質・能力を育成する意識⇒ 学年会等での確認  
例：① 学習の基盤となる資質・能力  
○言語能力 ○情報活用力 ○問題発見・解決能力(総合的な学習の時間・特別活動)

資質・能力育成の横のイメージ

まずは一つの教科等で育成する資質・能力を意識する。

縦のイメージ  
を生かした

- ② 各教科等の**横断的な連携**を意識したカリキュラム・マネジメントに基づく授業づくり  
例：② 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力⇒ ○健康・安全・食・伝統や文化・主権主・消費者・法・海洋・環境・地域に関する知識・技能を主体的に活用する力等

# 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成



授業の縦の  
国語科の特質

- ① **学習の基盤**となる資質・能力
- ② **現代的な諸課題**に対応して求められる資質・能力

資質・能力育成の横のイメージ

イメージ  
を生かした

教科等の一つである国語の授業自体は内容的に横には広がらない。

従来の教科等指導の目標・内容・方法の縦のイメージは不変。**資質・能力の育成の意識化。**

# 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

授業の  
国語科

- ① **学習の基盤**となる資質・能力
- ② **現代的な諸課題**に対応して求められる資質・能力

育成する資質・能力⇒**言語能力**

縦の  
特  
の

育成する資質・能力⇒**情報活用能力**

イ質を  
メを

育成する資質・能力⇒**問題発見・解決能力**

生かした  
ー  
ジ

一つの教科等で**学習の基盤**となる  
資質・能力の育成を目指す。

# 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- ① **学習の基盤**となる資質・能力
- ② **現代的な諸課題**に対応して求められる資質・能力

授業の**社会科学**の特質

授業の**総合学習**の特質

授業の**理科**の特質を

資質・能力育成の横のイメージ

縦のイメージを生かした

縦のイメージを生かした

縦のイメージを生かした

教科等の特質を生かした現代的な諸課題を教材、学習のテーマとする。

例：環境学習

複数の教科等で**現代的な諸課題**に対して求められる資質・能力の育成を目指す。

主体的・対話的で**深い学び**

見方・考え方

国語を要とする言語活動

情報活用能力の育成

学習の見通し・振り返り

体験活動・連携・自発的学習

各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

授業改善の流れ

「見方・考え方」が鍛えられる

各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図る。

## 主体的・対話的で深い学びの実現(「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善)について(イメージ)



「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにする。

### 【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。



主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

学びを人生や社会に  
生かそうとする  
学びに向かう力・  
人間性等の涵養

生きて働く  
知識・技能の  
習得

未知の状況にも  
対応できる  
思考力・判断力・表現力  
等の育成



### 【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。



### 【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

見方・考え方が各教科等の学びの  
深まりの鍵③解説総則編78頁

## 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 (イメージ)

### 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

### 対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

### 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

## 主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

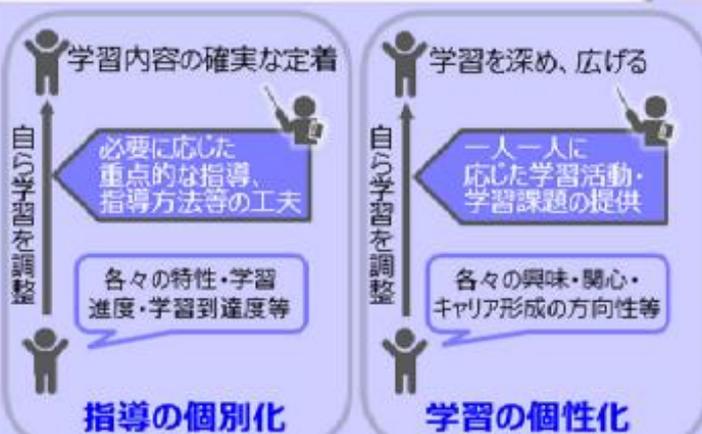
学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達の支援

授業改善

一体的に  
充実

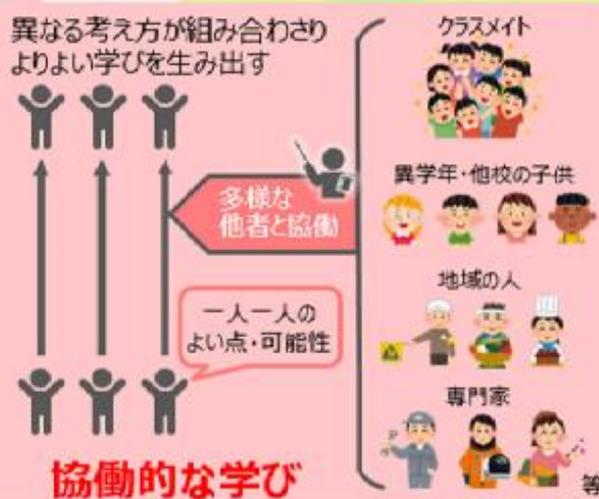
授業外の  
学習の改善

資質・能力の育成



## 個別最適な学び (教師視点では「個に応じた指導」)

修得主義 一人一人の学習状況に応じて学習内容を提供。一定の期間における個人々の学習の状況・成果を重視の考え方を生かす



## 協働的な学び

履修主義 集団に対して共通に教育を行う。一定の期間の中で個人々の多様な成長を包含の考え方を生かす

これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

平成29,30年改訂  
学習指導要領 前文

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

「主体的・対話的  
で深い学び」の  
授業改善

資質・能力の育成

学習指導要領の「前文」

一体的に充実

個に応じた指導

指導の個別化

ICTの活用

学習の個性化

協働的な  
学び

個別最適な学び

これからの学校には、  
こうした教育の目的及び  
目標の達成を目指し  
つつ、一人一人の児童  
が、自分のよさや可能  
性を認識するとともに、  
あらゆる他者を価値の  
ある存在として尊重し、  
多様な人々と協働しな  
がら様々な社会的変化  
を乗り越え、豊かな人  
生を切り拓き、持続可  
能な社会の創り手とな  
ることができるようにす  
ることが求められる。

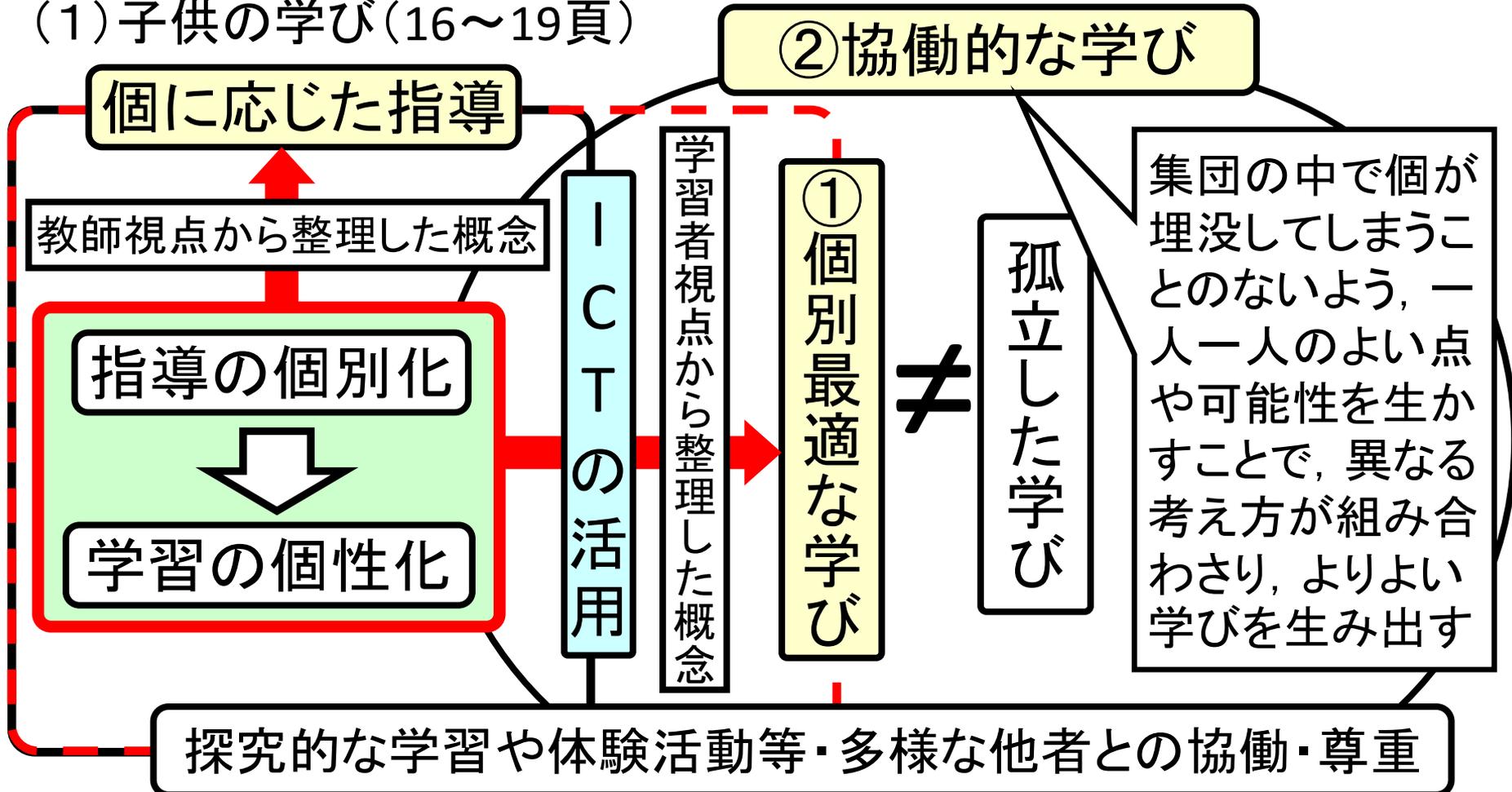
# 令和の日本型学校教育

前提

子供たちの多様化

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して  
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働  
的な学びの実現～」(中教審答申)2021年1月

(1) 子供の学び(16～19頁)



# 研究主題を単元・授業レベルで見える化(試案)

## (ICTを活用した)「個別最適な学び」

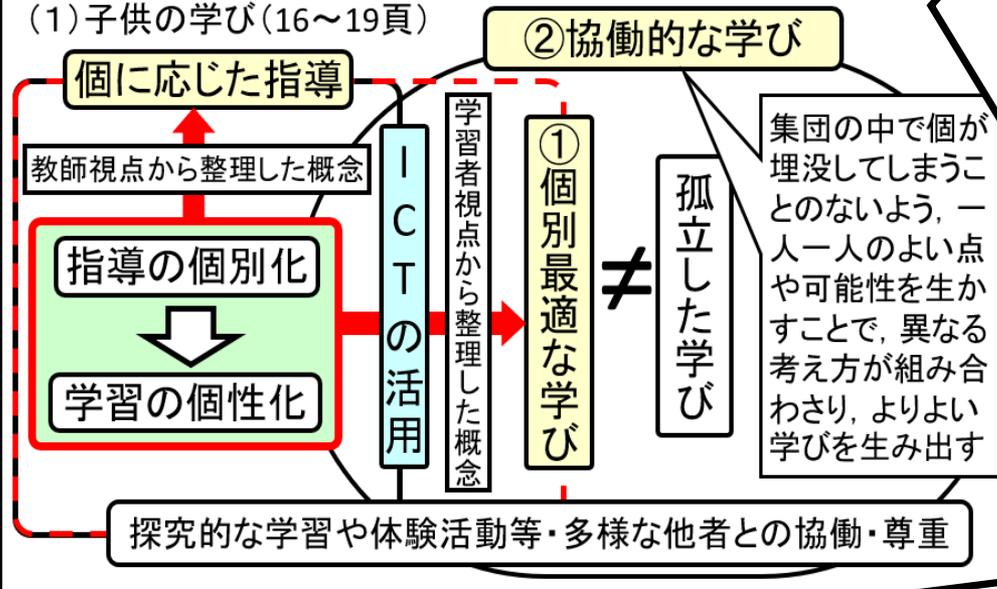
### 令和の日本型学校教育

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して  
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(中教審答申)2021年1月

(1)子供の学び(16～19頁)

### 前提

子供たちの多様化



「これまで地道に取り組まれ蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はない」。『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(4頁)

「個別最適な学び」とは「個に応じた指導」による「指導の個別化」と「学習の個性化」を**学習者(児童)視点から整理した概念**である。

同様に「指導の個別化」と「学習の個性化」を**指導者(教師)視点から整理した概念**が「個に応じた指導」である。

教育のデジタル化の加速も考慮して「ICTを活用した個別最適な学び」としてまとめられているが、それが「孤立した学び」になることがないように「協働的な学び」がセットとなっているのが特長である。

「個別最適な学び」は従来の**「個性を生かす教育の充実」**の時代に応じた再提起であり、「協働的な学び」は従来の多様な協同(共同)学習を前提としている。

## 学校におけるICTを活用した学習場面

A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進捗で学習することが容易となる。また、一人一人の学習進捗を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>		<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>	
<p><b>A1 教師による教材の提示</b></p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p><b>B1 個に応じた学習</b></p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p><b>B2 調査活動</b></p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p><b>C1 発表や話し合い</b></p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p><b>C2 協働での意見整理</b></p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p><b>B3 思考を深める学習</b></p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p><b>B4 表現・制作</b></p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p><b>B5 家庭学習</b></p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p><b>C3 協働制作</b></p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p><b>C4 学校の壁を超えた学習</b></p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

図 4-1 学校における ICT を活用した学習場面

# 学校におけるICTを活用した学習場面の特長

学習形態	学習活動	特長
一斉学習	教員による教材の提示	説明、興味・関心を高める
個別学習	個に応じる学習	<p>子供は、デジタル教材の活用によって、疑問について調べたり自分にあつた進度で学習することが可能。教師は、子供の学習履歴(状況)を把握することで、個々の理解や関心に応じた「個に応じた指導」によって、「指導の個別化」や「学習の個性化」を図ることができる。</p>
	調査活動	
	思考を深める学習	
	表現・制作	
	家庭学習	
<b>協働学習</b> ※「個別最適な学び・協働的な学びの一体的推進」	発表や話し合い	<p>タブレットや電子黒板を活用して、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において、子供同士による意見交換、発表等、お互いを高め合う学びを通じて、思考力、判断力、表現力等を育成することが可能。</p>
	協働での意見調整	
	協働制作	
	学校の壁を越えた学習	

## 学校におけるICTを活用した学習場面の特長

学習形態	学習活動	特長
一斉学習	教員による教材の提示	説明、興味・関心を高める
個別学習	個に応じる学習	子供は、デジタル教材の活用によって、疑問について調べたり自分にあった進度で学習することが可能。教師は、子供の学習履歴(状況)を把握することで、個々の理解や関心に応じた「個に応じた指導」によって、「指導の個別化」や「学習の個性化」を図ることができる。
	調査活動	
	思考を深める学習	
	表現・制作	
	家庭学習	
協働学習 ※「個別最適な学び・協働的な学びの一体的推進」	発表や話し合い	タブレットや電子黒板を活用して、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において、子供同士による意見交換、発表等、お互いを高め合う学びを通じて、思考力、判断力、表現力等を育成することが可能。
	協働での意見調整	
	協働制作	
	学校の壁を越えた学習	

①協働的な学びが「個別最適な学び・協働的な学びの一体的推進」につながるには、その前提となる、**個別学習におけるICT活用が充実していることが前提。**

②「①」が可能となるためには、「**一斉学習**」における**学習対象への興味・関心**の**もたせ方**や**そこでの「問い」の設定**が重要になる。

③「②」が可能となるには、「**学習問題**」や「**問い**」に対する「**予想**」の**活動**が重要になる。

問題解決的が学習過程で、子供の**興味・関心を持続させる学習展開が前提**⇒**教材・「問い」・発問**

## 個別学習

○デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

### 個別学習の実践例

個に応じた学習	一人一人の習熟の程度等に応じた学習
調査活動	インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録
思考を深める学習	シュミレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習
表現・制作	マルチメディアを用いた資料、作品の制作
家庭学習	情報端末の持ち帰りによる家庭学習

※「個に応じた指導」だけが注目されがち。多様な個別学習がある。

# 『教育の情報化に関する手引き』(令和元年12月)が想定する個別学習

## ① 個別学習

一人一人の特性や習熟の程度などに応じて個に応じた学習を実施するに当たり、個々の特性に応じてカスタマイズできる学習者用デジタル教科書や、習熟の程度や誤答傾向に応じた学習者向けのドリルソフト等のデジタル教材を用いることにより、各自のペースで理解しながら学習を進めて知識・技能を習得することが挙げられる。また、発音・朗読、書写、運動、演奏などの活動の様子を記録・再生して自己評価に基づく練習を行うことにより、技能を習得したり向上させたりすることが可能となる。この際、デジタルポートフォリオを活用して記録したり、自己評価を行ったりすることも考えられる。

## 一人一人の特性や習熟の程度などに応じて個に応じた学習

個々の特性に応じてカスタマイズできる学習者用デジタル教科書

習熟の程度や誤答傾向に応じた学習者向けのドリルソフト等のデジタル教材

技能の習得に向けた記録・再生を通じた自己評価に基づく練習・自己評価

## 個別最適な学び

個に応じた指導によって、子どものが自己調整しながら学習を進める。

# 『教育の情報化に関する手引き』(令和元年12月)が想定する個別学習

② 調査活動	<p>インターネットやデジタル教材を用いた情報収集, 観察における写真や動画等による記録など, 学習課題に関する調査を行うことが挙げられる。</p> <p>学習者用コンピュータ等を用いて写真・動画等の詳細な観察情報を収集・記録・保存することで, 細かな観察情報による新たな気づきにつなげることができる。また, インターネットやデジタル教材等を用いたり, 専門家とつないだ遠隔学習を通じて, 効率のよい調査活動と確かな情報収集を行うことで, 情報を主体的に収集・判断する力を身に付けることができる。この際, インターネット等で得た情報に記号や番号等を付してソートし整理したりすることも考えられる。</p>
③ 思考を深める学習	<p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた学習課題の試行により, 考えを深める学習を行うことが挙げられる。試行を容易に繰り返すことにより, 学習課題への関心が高まり, 理解を深めることができる。また, デジタル教材のシミュレーション機能や動画コンテンツ等を用いることにより, 通常では難しい実験・試行を行うことができる。</p>
④ 表現・制作	<p>写真, 音声, 動画等のマルチメディアを用いて多様な表現を取り入れた資料・作品を制作することが挙げられる。</p> <p>写真・音声・動画等のマルチメディアを用いて, 多様な表現を取り入れることにより, 作品の表現技法の向上につなげることが可能となる。また, 個別に制作した作品等を自在に保存・共有することにより, 制作過程を容易に振り返り, 作品を通じた活発な意見交流を行うことが可能となる。</p>

従来の指導法にICTを活用して多様な活動へ

# 『教育の情報化に関する手引き』(令和元年12月)が想定する個別学習

## ⑤ 家庭学習

学習者用コンピュータを家庭に持ち帰り、動画やデジタル教科書・教材などを用いて授業の**予習・復習**を行うことにより、**各自のペースで継続的に学習に取り組む**ことが可能となる。また、学習者用コンピュータを使ってインターネットを通じた意見交流に参加することにより、学校内だけでは得ることができない様々な意見に触れることが可能となる。

### 学習者用コンピュータを家庭で利活用

各自のペースで継続的に学習に取り組む。

インターネットを通じた意見交流に参加することにより、学校内だけでは得ることができない様々な意見に触れることが可能。

### 個別最適な学び

家庭で、子どもが自己調整しながら学習を進める。そこでの学習履歴(スタディ・ログ)は情報として教師のデータに反映される。

※以下、白尾の意見。家庭の格差が反映されやすいことを考慮に入れる必要。家庭学習をしない・できない子どもへの配慮・支援は不可欠。データに反映されない情報の確保・見取りが求められる。

## 協働的な学び

○探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成することを目指す。

## 協働的な学び の実践例

- ICTの活用により、児童生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら**共同で作成・編集等を行う活動。**
- 多様な意見を共有しつつ**合意形成を図る活動。**
- 遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域や海外との交流など、今までできなかった学習活動。

## 協働学習

○タブレットpcや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

### 協働学習の実践例

発表や話し合い	グループや学級全体での発表・話し合い
協働での意見整理	複数の意見・考えを議論して整理
協働制作	グループでの分担、協働による作品の制作
学校の壁を越えた学習	遠隔地や海外の学校等との交流学习

# 問題解決的な学習

学習のめあて

予想と予想の吟味・見通し

個別学習

タブレットを使ってもよいし、それ以外の資料等も可。

個に応じた指導

個別最適な学び

個に応じた学習／調査活動／思考を深める学習／表現・制作／家庭学習

ここでグループ学習が入ることもある。

個の実態に応じた指導／興味・関心・こだわりを促す指導

「見方・考え方」を使った相互関係等を問う発問

協働学習

発表や話し合い

協働での意見調整

協働制作

学校の壁を越えた学習  
(他校との交流学习等)

学習のまとめ・振り返り

「個別最適な学び」も「協働的な学び」も、最初は、これまでの教育実践に当てはめて考える。

提案授業：国語「個別最適な学び・協働的な学びの一体的推進」

糸満市立米須小学校 校内研修 2023年6月29日(水)

研究主題

自ら見通しをもち、自己調整をしながら、自立して学習する児童の育成

研究副題

～「個別最適な学び」に視点をおいた授業改善の工夫を通して（1年次）～

『新しい国語 四上』東京書籍

単元『人物の変化をとらえよう』／教材文：『走れ』

第6時 提案授業





物語『走れ』: 春の運動会の日  
のぶよ(4年生)⇒走るのが苦手・憂鬱  
弟(2年生): けんじ⇒走るのが得意・  
母親に身に来てほしい  
お母ちゃん⇒弁当の仕出し屋・忙しい





母：けんじのかけっこに間に合わない  
けんじ：不機嫌・仕出し屋と同じ弁当に  
不満⇒「もう行く」・・・駆け出した  
母：(本文)のぶよが戸惑っている間に

お母さんは黙っておにぎりを食べ始めた。何も言わず、ゆっくりご飯粒を飲み込んでいく。お母ちゃんの膝から割り箸が二つかさりと落ちた。店の名前入りの見慣れた割り箸。その紙の袋にお母ちゃんのごちごちした文字で、一つずつ、「けんじ、一等賞だ!」「のぶよ、行け!」と書かれていた。のぶよは割り箸を拾うとぎゅっと握ってけんじを追いかけた。

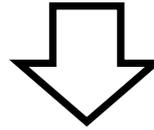


のぶよは、だまって、  
割り箸を見せた。

けんじは、黙って行ってしまふ。



- ・がんばって走らなきゃ。体が重い。
- ・お母ちゃん、ショックだったろうな。でも、けんじもさみしくて・・・私だって本当は・・・
- ・あ、もう走れない。



- ・その時、ふいに背中に二つの声
- ・「姉ちゃん、行け！」
- ・「のぶよ、行け！」
- ・思わず、ぎゅんと足が出た。
- ・「走れ！そのまんま、走れ！」

誰の声(言葉)か、分からない表記。



お尻が、すわっと軽くなる。次の瞬間、体に絡みついていたいろんな思いが、するするとほどけていった。走ったどこまでも走れる気がした。

単元デザイン: 個別最適な学びと協働的な学びの一体化の見える化

単元『人物の変化をとらえよう』における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の単元デザイン試案

『新しい国語 四上』(単元『人物の変化をとらえよう』/教材文:『走れ』) ※文学的な文章

- 1 単元目標 中心人物の気持ちの変化とその理由について考えて読むことができる。
- 2 言語活動 人物の気持ちの変化を考えて読み、考えたことを伝え合う。C(2)イ
- 3 指導計画(全10時間)(指導過程)

(1) **つかね** (読む: 2時間)

これまでの学習を振り返り、学習の見通しを立てる。

① これまでの教科書の物語の登場人物を振り返る。

② 物語文『走れ』の中心人物とその人の気持ちの変化に気を付けて読もう。

③ 初発の感想を書き、交流する。

④ 「学習のめあて」を作る。

のぶよの走ることへの気持ちや家族に対する気持ちはどのように変化したのかな。

また、どうしてその変化が起こったのかな。

⑤ 「学習のめあて」に対する予想を個別にまとめ、発表し合う。

(2) **取り組む** (読む: 7時間)

① 場面ごとに出てくる事柄を捉え、それぞれの出来事を関連づけ、中心人物の変化を捉える。(第3〜5時)

○ 文章中の「出来事」、登場人物の「気持ち」等、文章中の言葉を手がかりにして、

のぶよの気持ちを想像して、場面ごとにノートにまとめる。

※ 物語の展開に従って、場面ごとに読み進めながら、発問等で問いかけて、板書でも

整理しながら進める。合間に個別指導をしながら全員がまとめられるように指導する。

② **中心人物が、なぜ、どのように変化したのかを考え、自分の考えを友達と伝え合う。** (第6〜8時)

※ **提案授業「白尾」(第6時)**

① のぶよの気持ちに変化した出来事やそこでの登場人物の言葉や行動に着目しながら、のぶよの気持ちの変化を確認する。

② のぶよの気持ちの変化に影響を与えた出来事やそこでの登場人物の言葉や行動を複数選択してのぶよにとって、どの出来事・登場人物の言葉・行動が重要だったかについて考える。

この物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、のぶよの気持ちの変化に対して、**大きな影響を与えたものは、どれだと思いますか。二つ以上選んで、理由をしっかりとノートに書いてください。**

**指示**  
ノートに書けた人は、選んだ出来事・登場人物の言葉・行動をジャムボードに書いて送ってほしい。(ICTを活用した個別最適化の試み)

ア のぶよの気持ちの変化に影響を与えた出来事・登場人物の言葉・行動について、**多くの児童が共通にあげているものと少数の児童があげているものを確認する。**

イ 「ア」についての理由を発表し合う。

※ 教師は必要に応じて、発表の内容について児童の考え(共感や異論等)を確認する。

**発問**  
この物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、のぶよの気持ちの変化に対して一番大きな影響を与えたことは、どれだと思いますか。

ウ 「振り返り」をまとめる

(3) **振り返る** (読む: 2時間)

単元の学習を振り返る。

○ のぶよの気持ちの変化とその理由について、自分が考えたことをまとめ、発表し合う。  
※ 「のぶよさんへの手紙」という形にしても良い。

ここまでを2時間

ここまで3時間

作文課題「のぶよに一番大きな影響を与えたこと」

最初は、送られたものが大型テレビで子どもには見えないようにしておく。ある程度、そろってから一斉に見せる。

第7時、8時は、第6時の協働学習での話し合いを基に文章化する。

② 中心人物、登場人物の言葉・行動の中で、その登場人物の言葉や行動に着目しながら、その場面の感情や心理を捉え、その感情や心理を言葉で表現する。

※ 授業(1) (2) (3)

① のぶの気持ちが変化した出来事とその登場人物の言葉や行動に着目しながら、その場面の感情や心理を確認する。

② のぶの気持ちの変化に影響を与えた出来事とその登場人物の言葉や行動を複数選択して、その場面の感情や心理を確認する。

提案授業

個別学習・最適化

発問

この物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、その場面の感情や心理に対して、大きな影響を与えたものは、どれだと思いますか。二つ以上選んで理由を説明してください。

指示

ノートに書いた人は、選んだ出来事・登場人物の言葉・行動をシャムボードに書いて送ってください。(ICTを活用した個別最適化の試み)

協働学習

発問

この物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、その場面の感情や心理に対して、一番大きな影響を与えたことは、どれだと思いますか。

ア その場の感情の変化に影響を与えた出来事・登場人物の言葉・行動について、その場面の感情や心理を捉え、その感情や心理を言葉で表現する。  
イ その場の理由を説明する。

※ 教師は必要に応じて、発表の内容について児童の考え(共感や真摯等)を確認する。

ウ 「振り返り」をまとめる

最初は、送られたものが大型テレビで子どもには見えないようにしておく。ある程度、そろってから一斉に見せる。

第7時、8時は、第6時の協働学習での話し合いを基に文章化する。

# 国語科 ICTを活用した個別最適な学び・協働的な学びの試み

## 発問と指示

物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、のぶよの気持ちの変化に対して、大きな影響を与えたことは、どれだと思いますか。二つ以上選んで、理由をしっかりとノートに書いてください。

ノートに書けた人は、選んだ出来事・登場人物の言葉・行動をジャムボードに書いて送ってください。

物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、のぶよの気持ちの変化に対して、一番大きな影響を与えたことは、どれだと思いますか。

ビデオで確認

## 個別学習 最適化

※思考を深める学習

①個別に二つ以上の選択

②端末からジャムボードへ

## 協働学習

①②を基に協働で考え、「振り返り」で個別最適化

# 授業動画 分析

『新しい国語 四上』東京書籍 第6時 提案授業  
単元『人物の変化をとらえよう』／教材文:『走れ』

0:21:13 } のぶよの気持ち  
0:21:37 } の変化⇒指示

0:21:55 } 授業を進める  
0:22:16 }

0:23:35 } **個別学習**・指導  
0:24:20 } 最適化を促す

0:26:55 } タブレットへ入力  
0:27:38 } ICT活用

0:33:00 } **スクリーンから**  
0:33:55 } **黒板へ**

0:36:33 } 「いいでしょう」  
0:37:18 } **協働学習へ**

0:00:00 } 個別指導・学習  
0:00:55 } 最適化を促す

0:01:20 } 発表  
0:01:40 }

0:01:50 } 個別:「一番大事  
**0:02:59** } なことは？」

0:03:57 } 発表準備・個別  
**0:05:02** } 発現の理由・根拠

0:06:10 } 発表  
0:07:02 } 協働学習

**0:07:52** } 発表  
0:09:14 } 学習のまとめ

第4学年 国語科学習指導案

米須小学校4年組 名

授業者 白尾裕志

- 単元名/教材名 人物の変化をとらえよう』(読む) / 教材文:『走れ』 (東京書籍四上)
- 第2時間目の目標  
中心人物が、なぜ、どのように変化したのかを考え、自分の考えを友達と伝え合うことができる。
- 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 前の時間の学習を振り返る。※「振り返り」 (1) 前の時間の「振り返り」から前時を想起する。 (2) 前時の学習を場面毎の出来事と中心人物(のぶよ)の変化を確認する。	・よく書けている「振り返り」をほめる。 ・出来事と「のぶよ」の「変化」を確認させる。
	2 本時のめあて  のぶよの気持ちは、なぜ、どのように変化したのかを考え、友達と <b>伝え合おう</b> 。	「伝え合おう」という方向目標の「めあて」なので、「まとめ」は「伝え合い」の具体的表現でまとめる。※「めあて」が到達目標(～なぜだろう等)の場合は、到達した事柄や理解を「まとめ」とする。
展開 37分	3 のぶよの気持ちの変化に大きな影響を与えた出来事・登場人物の言葉・行動を二つ以上選び、自分の考えをノートにまとめる。  この物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、のぶよの気持ちの変化に対して、大きな影響を与えたことは、どれだと思いますか。二つ以上選んで、理由をしっかりとノートに書いてください。	のぶよの気持ちの変化の理由と過程を考えるために出来事・登場人物の言葉・行動を選択・判断し、その理由付けをすることで「めあて」に迫る。
	(1) <b>個別学習</b> として一人で取り組む(相談可)。	・担任と共に机間巡視をする。 ・ノートに十分に書き込んでいることを確認して、次の指示を出す。
	ノートに書けた人は、選んだ出来事・登場人物の言葉・行動をジャムボードに書いて送ってください。※「理由」は書かない。発表時はノートを見て発表する。	
	(2) 端末を使った <b>個別学習</b>	・担任と共に指示を出し、机間巡視する。
	(3) 大型テレビでジャムボードの集計を確認する。 ・共通していることと少数意見を確認して、共通する理由や少数意見の理由を確認する。	・ <b>ICTを活用した個別最適化の試み</b> ・少数意見に児童の自立した読みの可能性がある。
4 のぶよの気持ちの変化について話し合う。  この物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、のぶよの気持ちの変化に対して、一番大きな影響を与えたことは、どれだと思いますか。	・ <b>協働学習</b>	
(1) 話し合い	・発言のキーワードから「まとめ」となる内容を板書しておく。	
まとめ	5 学習のまとめ ・話し合いの発言内容からまとめる。 ・「振り返り」をノートに書く。  「振り返り」のテーマ:「のぶよに一番大きな影響を与えたこと」	・「振り返り」は学習活動全体を含んだ「問い」を考えさせることで行う。 ・時間があれば個人で発表させる。

これまでの学習を基に  
個で考える学習活動と  
集団で考える学習活動  
を中心に「個別最適な  
学びと協働的な学びの  
一体化」を図る。

個別学習

- ①個に応じた学習
- ②思考を深める学習

個別指導によって  
最適化を図る。

協働学習

- ①発表や話し合い
- ②協働での意見調整

協働学習を通じた  
個別最適化を図る。

個別学習

- ②思考を深める学習

# 算数科 ICTを活用した個別最適な学び・協働的な学びの試み



変わり方を調べて 第6学年 比例と反比例

## 表を使って考えよう (2)

変わり方のきまりをみつけて

**1** 1冊120円のノートと1冊100円のノートが、あわせて50冊売れました。ノート50冊の売上高は5300円でした。120円のノートと100円のノートは、それぞれ何冊売れましたか。



**ア** 売れた50冊全部が100円のノートだとしたら、売上高は何円になりますか。



100×50=5000で、5000円です。

さくら

120円のノートの数を1冊、2冊、3冊、……と増やしていくと、売上高も増えていくから……



かいと

**めあて** 表にかいて、問題を整理して考えよう。

**イ** 120円のノートの数を、1冊、2冊、3冊、……と増やして、売上高がどのように変わるか、表にかいて調べましょう。

120円のノート(冊)	0	1	2		
100円のノート(冊)	50	49	48		
売上高(円)	5000	5020	5040		5300



120円のノートが1冊増えると、売上高は20円増えます。

だいち



変わり方のきまりをみつけると、全部を調べなくてもわかるね。

ひなた

**2** 1枚50円の絵はがきと1枚80円の絵はがきを、あわせて20枚買うと、代金は1240円でした。50円の絵はがきは、何枚買いましたか。



教科書でのキャラクターのつぶやきは、「数学的な見方・考え方」を表している。

### 数学的な見方・考え方

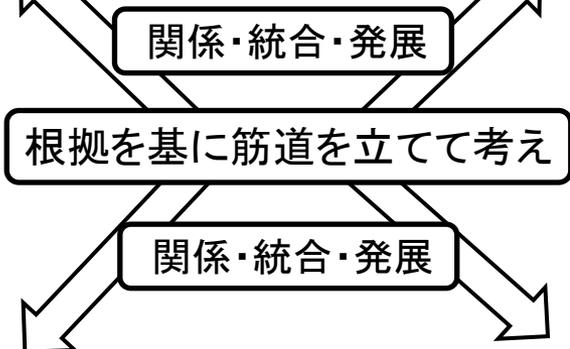
事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。

100×50=5000で、5000円です。

さくら

120円のノートの数を1冊、2冊、3冊、……と増やしていくと、売上高も増えていくから……

かいと



キャラクターを活用した展開

120円のノートが1冊増えると、売上高は20円増えます。

だいち

変わり方のきまりをみつけると、全部を調べなくてもわかるね。

ひなた

キャラクターの発言を引き出す発問・学習活動

# 算数科 ICTを活用した個別最適な学び・協働的な学びの試み

第6学年 比例と反比例



変わり方を調べて

## 表を使って考えよう (2)



変わり方のきまりをみつけて

「あわせて50冊」  
が大事な条件

1

1冊120円のノートと1冊100円のノートが、あわせて50冊売れました。ノート50冊の売上高は5300円でした。120円のノートと100円のノートは、それぞれ何冊売れましたか。



2 売れた50冊全部が100円のノートだとしたら、売上高は何円になりますか。



100×50=5000で、5000円です。



120円のノートの数を1冊、2冊、3冊、……と増やしていくと、売上高も増えていくから……



かいと

めあて 表にかいて、問題を整理して考えよう。

めあて

表に書いて、問題を整理して考えよう。

発問① ㉠の答えは？



100×50=5000で、5000円です。

120円のノート(冊)	0	1	2		
100円のノート(冊)	50	49	48		
売上高(円)	5000	5020	5040		5300

発問②: 売上高は、どのように変わっていますか？



120円のノートの数を1冊、2冊、3冊、……と増やしていくと、売上高も増えていくから……



かいと

120円のノートが1冊増えると、売上高は20円増えます。

だいち

きまり

「売上高」(合計)が20円ずつ増えることが重要！

個別学習

⇒ 個に応じた指導

5000円が20円ずつ増えて、5300円になるには……

発問③: ひなたさんは「変わり方のきまりをみつけると、全部を調べなくてもわかるね」と言っています。ひなたさんの言っている意味が分かりますか？



ひなた

変わり方のきまりをみつけると、全部を調べなくてもわかるね。

①思考が進まない児童: ICT等の活用による視覚化⇒表の完成  
②思考が進む児童: 「全部を調べなくてもわかる」ことを説明できるように促す

# 算数科 ICTを活用した個別最適な学び・協働的な学びの試み

## 算数科 ICTを活用した個別最適な学び・協働的な学びの試み

**第6学年 比例と反比例**  
**表を使って考えよう (2)**  
 「あわせて50冊」が大事な条件

1冊120円のノートと1冊100円のノートが、あわせて50冊売れました。ノート50冊の売上高は5300円でした。120円のノートと100円のノートは、それぞれ何冊売れましたか。

売れた50冊全部が100円のノートだとしたら、売上高は何円になりますか。

120円のノートの数を1冊、2冊、3冊、……と増やしていくと、売上高も増えていくから……

100×50=5000で、5000円です。

120円のノートの数を1冊、2冊、3冊、……と増やしていくと、売上高も増えていくから……

めあて  
表に書いて、問題を整理して考えよう。

発問① ㉠の答えは？

120円のノート(冊)	0	1	2		
100円のノート(冊)	50	49	48		
売上高(円)	5000	5020	5040		5300

発問②: 売上高は、どのように変わっていますか？

5000円が20円ずつ増えて、5300円になるには……

「売上高」(合計)が20円ずつ増えることが重要！

個別学習 ⇒ 個に応じた指導

①思考が進まない児童: ICT等の活用による視覚化⇒表の完成  
 ②思考が進む児童: 「全部を調べなくてもわかる」ことを説明できるように促す

発問③: ひなたさんは「変わり方のきまりをみつけると、全部を調べなくてもわかるね」と言っています。ひなたさんの言っている意味が分かりますか？

### 個別最適化

①思考が進まない児童: ICT等の活用による視覚化⇒表の完成

個の実態に合わせた最適化①

②思考が進む児童: 「全部を調べなくてもわかる」ことを説明できるように促す

個の実態に合わせた最適化②

協働的な学び

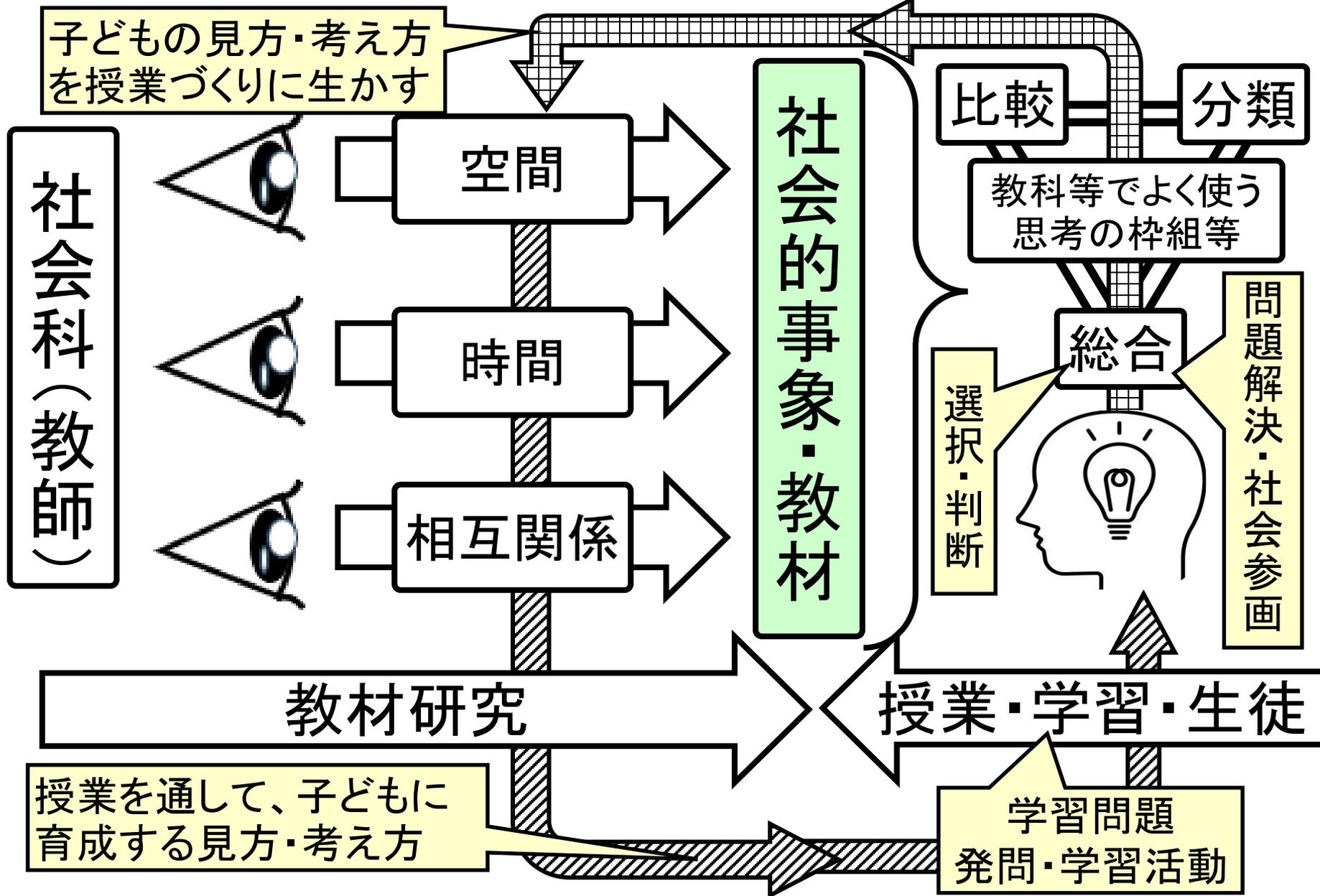
発表

個の実態に合わせた最適化①②が「孤立した学び」で、終わらないようにする。

発問④: 考え方①や②のよさが分かりますか？ ⇒

①: 変化の様子が少しずつ分かる。  
 ②20円ずつの変化が300円になるには、 $300 \div 20 = 15 \Rightarrow$  120円のノート15冊  $\Rightarrow 50 - 15 = 35$ 冊

# 社会的な(社会事象の)見方・考え方を使った授業づくり



- ① 選択的発問
- ② 多様な考えを求める発問
- ③ 問い返し型発問  
※理由や説明を求める
- ④ 比較・分類・総合型発問

## 教師の教育内容(知識・概念等)理解に基づく発問

### 6W1H

- ① What(何が・何を) ② When(いつ)
- ③ Where(どこで) ④ Who(誰が・誰と)
- ⑤ Why(なぜ) + not(そうしない)  
+ if(もし~したら、なぜ?)
- ⑥ Which(どれ・どちら)
- ⑦ How(どのように) + many / much

### 学習対象に対する同化・異化

- ① 学習対象の立場へ接近(同化)  
⇒「A(登場人物)はなぜ『いじめ』と考えたのか？」
- ② 学習対象の立場の相対化(異化)  
⇒「A(登場人物)の考えについてどう思うか？」  
※子ども自身の捉え(見方・考え方)

### 学習者同士の立場の交流

- ① 子ども自身の思考の表現とその理由  
⇒「~についてどう考え(思い)ますか？」
- ② 他者の思考の解釈・理由付け  
⇒「A君(またはB班)がそう考えた理由は何？」  
※自分に対する他者の考えを知ることで深まる

学習対象  
教材等

人物  
事実  
表現  
(文章)  
(図表)  
(作品)  
変化  
関係

学習者

児童生徒

教師

発問

- 子どもの視点の焦点化  
(見え方の違い)
- ありの目 & 鳥の目
  - 部分と全体
  - ~みたい / のようだ
  - 立場(当事者・生活者等)

二つの観点からの発問の組合せ

対象を突き放した見方・客観・外の目・異化

学習対象

個の対象の捉え方・見方・考え方の違い

それぞれに理由がある  
なぜ？

対象との距離

- 具体 ↔ 抽象
- 異化 ↔ 同化
- 個人 ↔ 集団

児童生徒 B

対象に寄り添った見方・主観・内の目・同化

事実・思考・判断  
登場人物

寄り添う・近づく・感情移入

〇〇についてどう考え(思い)ますか？

児童生徒 A



学びに向かう力・人間性」の評価

主体的に学習に取り組む態度」の評価

**観点別評価**(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分

個別化が前提

個に応じた指導

指導の個別化

学習の個別化

子供自身が、学習が最適となるよう調整する場を学習活動に取り入れる(振り返り/学習途中での個別の活動等)

「**学習履歴(スタディ・ログ)**」

- ①粘り強い取組を行おうとする側面
- ②「①」の粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面

**個人内評価**(個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する)を通じて見取ることができる部分

継続的に評価を重ねる

「個別最適な学び」を進める際の評価をどのようにみとればよいか。

②粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面

よりよい「解」を考え学習したことを次の学習や生活に生かそうとしているか。

学習の過程において、次の展開に向けて生徒自身が創意工夫する。  
※発言内容やノートやレポート、「振り返り」の記述等。

①知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面

学習問題や学習対象の事象・内容等に対して、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか、多角的な見方から、問題を捉えて解決しようとして、調べて、分かったことをより詳しく丁寧に表現しようとしている姿。※ノート、調べたことのまとめや「振り返り」の記述等。

